

# 腸の難病者に共済制度

## 「生保入れぬ」救済

### NPO創設

難病の潰瘍性大腸炎とクローン病の患者と家族を対象に、死亡時に最高3千万円の補償金を支払う共済制度ができた。こうした「炎症性腸疾患」(IBD)患者の支援活動をしているNPO(非営利組織)「アイ・ビー・リーグ・クラブ」(東京都港区)が「生命保険に入れない」という患者の悩みに応えて創設、加入受け付けを開始した。

## 他の難病の手本も

国内には約50万人の難病認定患者がいるが、補償制度ができたのは同クラブによると初めて。運病認定患者がモデルケースにしている。大腸に潰瘍ができ、下痢や下血を起こす潰瘍性大腸炎と、腸や他の消化器に潰瘍ができるクローン病は根本治療策がないとして、国が特定疾患に認定、医療費を助成している。合計約9万人の

認定患者がおり、近年、若年層の発病が急増している。症状のひどい時期には入院が必要になることもあるが、多くの患者は通常の生活を送っている。同クラブが00年、会員にアンケートを実施したところ、「IBDと診断が確定したら、県民共済の加入を取り消された」「保険加入はあきらめていたが、妻子のことを考えると不安」といった訴えが多かった。

「難病患者と言うだけで、リスクの高い人たち」とされ、一部の少額保険を除き、生命保険に入れない。それなら、自分たちで作ろうと考えた」と、同クラブの塩島久事務局長。相互扶助として、非営利で運営される共済の仕組みを活用することにした。同クラブのような任意団体が作る共済は認可が不要で、内容も自由に設計できる。共済の加入年齢は患者が16〜65歳(未成年者は

親権者・後見人の同意が必要)。補償期間は8年で、審査を通れば更新できる。掛け金は掛け捨てで、40歳の患者男性で補償金額1千万円の場合、月6860円。同クラブは、加入者の死亡が相次ぐような場合でも補償金を払えるよう、ヨーロッパの大手保険会社と

この記事は朝日新聞社の許諾を得て転載したものです。

無断転載など、朝日新聞社の権利を侵害する一切の行為を禁止します。

再保険契約を結ぶ予定だ。

問い合わせは同クラブ

まで。電話03・5545

・48800またはホーム

ページの(<http://www.w.iblclub.com>)

で。